Q 大人の膝ほどまで道路の冠水が数日続き、外出ができないという特殊な場所については、市としても、水中ポンプ等で水を掃き出してあげるなどの対策が必要ではないか。

A 総務部長　市では、排水用の水中ポンプを、保有していません。私道の冠水時の対応は、必要に応じて地元の区から、地元の消防団に協力を要請し、消防車両等による排水を行っていただいている現状です。

水中ポンプの市からの貸し出しについては、検討します。

●ごみ対策について

Q ごみの減量化への取り組みはどうか。

A 経済環境部長　生ごみを堆肥化するコンポスター、生ごみ処理機の購入費で2万円を限度にその2分の1を補助し、地域や団体が行う廃品回収への奨励金を1キログラムあたり3円交付し、また、市役所・出張所にリサイクル倉庫を設置し、有効利用を図っています。

Q 分別収集計画を受けて、ごみの減量化に対する流れを作れるように、チャレンジ目標などを作り、取り組んではどうか。

A 経済環境部長　現在は、市で特別な計画はありませんが、東金市外三市町清掃組合、山武郡市環境衛生組合の両組合と協議しながら進めていきたいと考えています。

Q 家庭ごみ1人の排出量と企業ごみの排出量の推移はどうか。

A 経済環境部長　市の一般廃棄物の排出量は、ピーク時の平成21年度で、全体量が1万5千606tです。その後は年々減少し、平成24年度は1万5千158tで448t減少しましたが、これは人口の減少も要因の一つと考えます。ごみ全体に占める家庭ごみの割合が約8割、事業系のごみが2割です。1人、1日当たりのごみの量は、平成21年度が731g、平成24年度が738gで、横ばいという状況です。

Q 回収機を市が設置、推進をしてはどうか。

A 経済環境部長　当面は資源回収運動、廃品回収等に力を入れさせていただき、市が設置することは今後の課題としたいと考えます。

Q 乳幼児、傷病、障害のある方及び高齢の方など、常時紙おむつを使用する方へのごみ袋の助成制度についてはどうか。

A 経済環境部長　何らかの支援について考えなければいけないと考えています。例規や予算の関係もあるので、関係部署と協議したいと思います。

Q 山武郡市環境衛生組合の収集地区の缶、瓶、不燃ごみを、成東地区と同様に生ごみのごみステーションで回収し、市全体のサービスの統一を図ってはどうか。

A 経済環境部長　市民の皆様方の御意見、関係市町との協議を重ねていって、将来的には統一していきたいと思っています。

●スポーツ振興について

Q チャレンジデーの参加についてはどうか。

A 教育部長　チャレンジデーの目的や手法等を参考にし、現在実施している各種イベント等に、1人でも多くの市民の方が参加するよう、創意工夫し、関係団体と連携を図りながら進めていきたいと思います。

A 市長　市民全体が一体感を持てるような方向の中で検討させていただきます。

【チャレンジデーとは】
毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型のスポーツイベント。参加者の年齢や性別は問わず、人口規模がほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して何らかの運動やスポーツをした住民の参加率を競い合う。

個人質問

市川　陽子 議員

●がん検診受診率アップについて

Q 現在までの乳がん、子宮がん、大腸がん検診の全体の状況と無料クーポンの利用状況はどうか。

A 市長　特に乳がん検診は、市独自で平成23年度、特定年齢の超音波検査対象の方にも、無料クーポン制度を適用し、これからも継続実施予定です。また、昨年度から市内の大腸がん検診精密検査実施医療機関の医師の皆様方とがん検診受診率向上を検討しました。

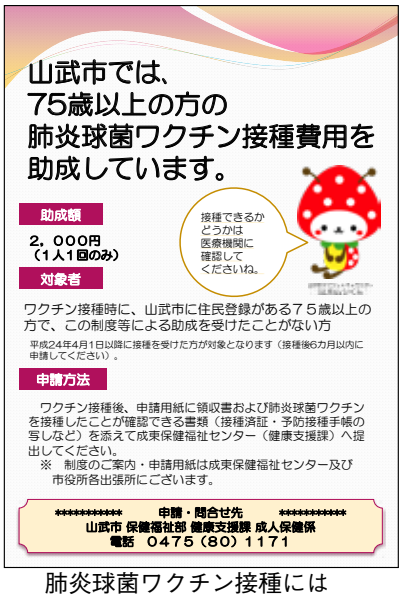
40歳以上の市民全ての世帯に、はがきで、がん検診の受診勧奨を計画しています。

Q 無料クーポン該当者へのお知らせの取り組みはどうか。

A 保健福祉部長　該当者へは全員通知し、また、広報等で周知を図りました。

Q 検診の案内をした人が受診しない場合、手紙や電話等で改めて踏み込んだ案内をする仕組みなど、市民に対しての確実なコール・リコール、個別受診勧奨制度の導入はどうか。

A 保健福祉部長　受診率の向上を図るため、



肺炎球菌ワクチン接種には助成があります